

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
期首会員数	231	235	223	233	234	217	222	222	236	231	229	192	165	182
入会員数	36	44	62	50	37	50	55	66	56	65	42	27	43	
卒業生数	19	45	30	31	31	31	41	37	40	42	46	34	26	33
期末会員数	267	279	285	283	271	267	277	288	292	296	271	219	208	182
理事数	27	29	28	25	27	26	25	25	26	27	25	25	26	25
理事割合（期首）	11.69%	12.34%	12.56%	10.73%	11.54%	11.98%	11.26%	11.26%	11.02%	11.69%	10.92%	13.02%	15.76%	13.74%
理事割合（期末）	10.11%	10.39%	9.82%	8.83%	9.96%	9.74%	9.03%	8.68%	8.90%	9.12%	9.23%	11.42%	12.50%	13.74%

各委員会の平均人数

2019年度の数字は予測

キャビネット	15	14	14	13	14	15	14	15	16	15	14	15	15
直前・監事	2	4	4	4	4	4	4	5	4	4	3	3	3
委員会数（含特別）	12	15	13	13	13	12	12	12	12	13	12	12	12
期首時点	18	15	16	17	17	17	17	17	18	17	18	15	13
期末時点	21	18	21	21	20	21	22	23	23	22	22	17	16

考察

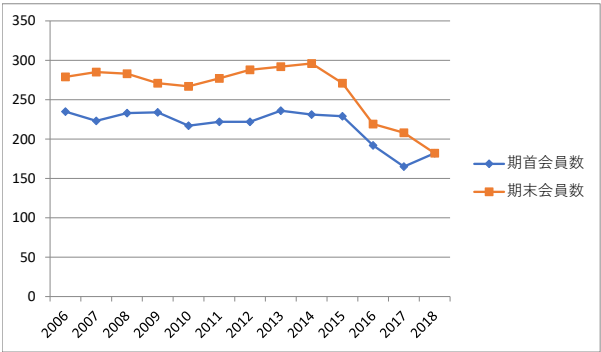
例年、期首時点における委員会の人数は、平均17人程度であったのに対し、近年は、15人を割り込む状況となっており、本年は13人となっているため、理事の負担が例年よりも大きくなっていると考えられる。

2006年～2013年の11年間の会員に対する理事割合は11.54%と比較的安定していましたが2017年に初めて13.02%と13%台になりました。2018年は15.76%と急激に割合が大きくなり、設立当初の割合を維持すると19名～21名が妥当との考えとなります。

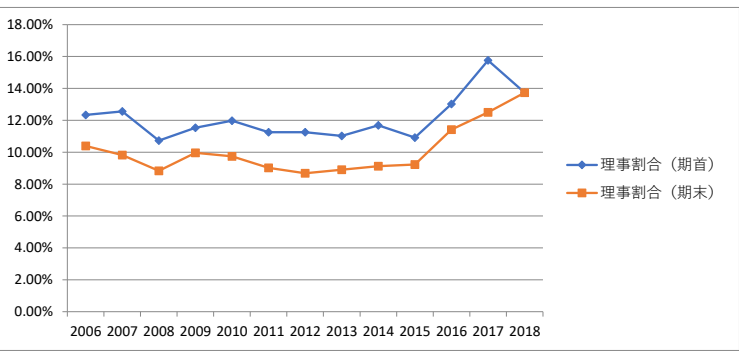
なぜ11.5%付近がいいのかと考えられるのは期首会員数が2016年まで安定していることがあります。拡大人数・退会者人数・卒業人数を考え理事割合は11.5%前後にしていることが運営において最善だと考えます。

11.5%前後が最適だと考えますが、単年度制での青年会議所活動を考え、理事長の方針にも柔軟に対応できるよう上限は変更せず30名のままとします。今後再び300名LOMを目指すためにも上限は変更しないことが望ましいと考えます。

期首会員数・期末会員数の推移



会員数に対する理事割合の推移



期首・期末時点の委員会の平均所属人数の推移

